

参考資料①

農薬カードゲームに登場する病害虫紹介
写真提供：日本植物防疫協会

アブラムシ



セミの仲間で針のような口を使って植物の汁液を吸います。体長は1~2mm、大きい種類でも3mm程度。色は黄緑色のものから黒っぽい色のものまでさまざまです。野菜の新芽に好んで住み着き、植物は汁液を吸われて、生育不良になったり、アブラムシの口からウイルスが感染して病気になったりします。

なす、にんじん、こまつな、レタスの他、トマトやだいこんなどいろいろな野菜を加害します。そんなアブラムシの天敵はテントウムシ。

テントウムシが飛んでくれば食べてくれるかも！

ナモグリバエ

レタス、こまつな、はくさい、だいこん、さやえんどう、かぶなどいろいろな野菜に発生します。

幼虫は乳白色で体長3mm、葉内にもぐって葉を食べ進み、白い線状の模様をつけることから別名「絵描き虫」とも呼ばれています。

そして葉の中で蛹になります。

成虫は3mmの小さなハエです。



ハスモンヨトウ

幼虫が小さいうちは黄緑色でこまつな、はくさい、だいこん、ねぎ、キャベツ、にんじんなどのいろいろな野菜の葉を食害します。脱皮を繰り返すと約4cmくらいの暗褐色の幼虫となり、

トマト、ピーマンやなすなどの実を食べることも。日中は土の中にひそみ、夜に活動する習性があります。

将来は体長2cmくらいで羽に褐色のしま模様があるガになります。



キアゲハ

幼虫時代、にんじん、パセリ、セロリなどのセリ科野菜の葉を好んで食べるアゲハチョウの仲間。

鳥のふんのような黒色と白の幼虫は、脱皮を繰り返すと黄緑色と黒色のしま模様になり体長5cmくらいになります。

オレンジ色の点模様が特徴的です。新芽や葉、茎まで食害し、野菜が生育不良になります。あっという間に食べ尽くしてしまう大食家です。



キャベツ

成虫

オオタバコガ

幼虫はレタス、キャベツ、こまつな、はくさい、ブロッコリー、トマト、なす、ピーマン、とうもろこしなどのいろいろな野菜の葉も実も食害します。

幼虫は淡緑色や濃褐色の体色で気門や気門の下には白い線があるのが特徴です。

3~4cmまで大きくなり、成虫は1.5~2cmの黄褐色や濃褐色のガになります。



参考資料_②

農薬カードゲームに登場する病害虫紹介

写真提供：日本植物防疫協会、

(にんじん根腐れ病のみ) 石川県農林総合研究センター農業試験場

べと病

こまつなやレタスの場合、外葉の一部が黄色くなったりうっすら色が抜けてきたり。梅雨のような湿度の高い時によく発生し、雨でぬれた状態ではべとべとで、晴天が続くと乾いてパリパリになります。

病気になった葉の裏側には、白色で粉状のカビが生えることも。きゅうり、はくさい、ほうれんそう、たまねぎ、ぶどうなど多くの作物で発生します。

密植を避け、水はけをよくし、病気の葉を見つけたら早めに取り除いて病気が広がらないようにしましょう。



根腐れ病



根が腐り、野菜の葉が黄色になったり、発育不良になったりする病気です。

にんじんの場合、根部の皮を中心に所々が横縞状の黒色に。だんだん腐ってしまいます。

レタス、セロリ、ごぼうなどで発生しやすく、レタスでこの病気にかかると葉がしおれて生育不良になります。

夏に土の高温状態が続くときには注意が必要です。土の水はけをよくして、病気を見つけた場合は早めに取り除きましょう。

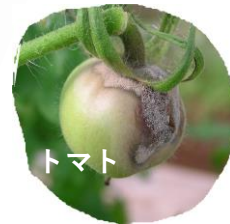
白さび病



葉ではじめ退色した部分が点々と発生し、葉の裏に少しふくらんだ白色の斑点ができる病気です。こまつな、チンゲンサイ、はくさい、カリフラワー、かぶ、だいこんなどにもこの病気は発生します。水はけをよくし、密植を避け通風をよくし、病気の葉を見つけたら早めに取り除きましょう。

灰色かび病

なす、レタス、きゅうり、トマトなどの多くの野菜で発生する病気です。特に20℃前後の温度で湿度が高く、日照が少ないときに発生しやすくなります。葉や茎が灰色のカビで覆われてだんだん腐って



しまい、野菜の生育が悪くなります。

枯れた葉を放置しておくと、そこから病気が広がるので、病気の葉を見つけたらこまめに

取り除きましょう。

うどんこ病

野菜の葉や茎、果実が白い粉をかけたようにカビが生える病気です。

名前のおり「うどんの粉」

をまぶしたよう

な様子になります。

カビが繁殖した部分は光合成をうまく行えず、放っておくと葉が枯れ、成長不良になったり実が大きくならなくなったりします。

きゅうり、にんじん、いちご、

なすなどの野菜がこの病気にかかります。うどんこ病を見つけたら、早め

に農薬を使ったり、病気の葉を取り除いて、日当たりを確保したりしましょう。

